

野々市市郷土資料館リニューアル

中央設計技術研究所が管理運営

建設コンサルタントの中央設計技術研究所（金沢市、西原秀幸社長）が野々市市郷土資料館（野々市市本町3丁目）が2



日、「野々市市郷土資料館（のの）」として名称を改め、リニューアルオープンした。

野々市市では旧北国街道のにぎわいを創出するため、官民連携による取り組みを推進しており、昨年度、郷土資料館の活用事業者を公募。同社が契約候補者に選定され、本格営業に向けて準備を進めていた。

リニューアルセレモニーには、来賓として栗貫章野々市市長をはじめ、市の幹部や地元の町内会長らが出席。運営を担う西原社長は「多くの人が交流を深める場所として今後、カフェのメニューや物販などを段階的に拡大するとともに、VR技術を活用し、地元の金沢工業大学と産学共同で野々市の過去から未来までの映像制作を進めていきたい」と意欲を写真。栗市長も「多くの人が集う拠点になってほしい」と期待を寄せた。その後、ロングカウンターやWiFiを完備した施設内を見学、併設のカフェ「の蕎麦」が提供する手打ちそばに舌鼓を打った。

今回の運営事業は同社にとって、白山麓の地域活性化会社「白山瀬波」、千丈温泉「清流」の運営に続き、地方創生事業の第3弾に位置付ける。